

学会員（教員）研究動向〔2017.4～2018.3〕

名 前	種 別	書名、論文名等、(掲載書名・誌名(巻号)、出版社・発行所)、頁	発行年月
秋葉 武	論文(単著)	「協同組合としてのトラック共済」(『平成27・28年度 共済理論研究会論文集』、日本共済協会編) 139-156頁	2017.10
	その他 (同会・バリスト等)	「日本の社会的企業」(日韓市民100人未来対話、於：フェニックスアイランド、西帰浦市)	2017.11
有賀 郁敏	論文(単著)	「スポーツ政策少考—スポーツの成長産業化と大学スポーツのゆくえ—」(『立命館産業社会論集』53巻3号) 1-26頁	2017.12
	その他(単著)	「『人間が試される聖域』からの眼差し—『自立』からコミユナルな関係性へ—」(『卒業論文集—余暇社会の歴史と現代—』、立命館大学産業社会学部有賀郁敏ゼミ) 1-4頁	2018.3
飯田 豊	著書(共著)	『メディア論』(水越伸・劉雪雁、放送大学教育振興会) 30-113頁	2018.3
	著書(編著)	『メディア技術史—デジタル社会の系譜と行方 [改訂版]』(北樹出版) 3-4・84-97・153-164頁	2017.4
	著書(共編著)	『現代メディア・イベント論—パブリック・ビューイングからゲーム実況まで』(立石祥子、勁草書房) 1-35・227-253頁	2017.9
	著書(分担執筆)	『談 no.109 〈ポスト真実〉時代のメディア・知性・歴史』(西田亮介・武田徹、公益財団法人たばこ総合研究センター) 33-50頁	2017.7
	著書(分担執筆)	『1990年代論』(大澤聡編著、河出ブックス) 143-155頁	2017.8
	論文(単著)	「ポスト渋谷系の戦略と憧憬—一九〇年代のサニーデイ・サービス、その語られ方の移ろい」(『ユリイカ』2018年1月号、青土社) 205-214頁	2017.12
	論文(単著)	「メディア・イベントの可能態—藤幡正樹『Light on the Net』を解説する」(『情報科学芸術大学院大学紀要』9巻) 160-164頁	2018.3
	研究発表等 (単独)	「テレビ研究、マクルーハンズム、メディア論的想像力」(「光岡寿郎『変貌するミュージアムコミュニケーション—来館者と展示空間をめぐるメディア論的想像力』を読む」、於：東京大学本郷キャンパス)	2017.8
	研究発表等 (単独)	「藤幡正樹『Light on the Net』を解説する—藤幡正樹『巻き戻された未来』(1995)、祐川良子『インターネットメディアにおける美術作品の試みと考察』(1997)を補助線に」(岐阜おおがきビエンナーレ2017 シンポジウム「藤幡正樹『Light on the Net』を解説する」、於：情報科学芸術大学院大学)	2017.12
	研究発表等 (単独)	「地域映像アーカイブをめぐる専門知と市民的公共性(とアマチュアリズム)」(公開研究会「地域と映像アーカイブ」、於：神戸映画資料館)	2018.3
	研究発表等 (単独)	「『メディア論』の到達点と課題—日本的Wellbeingを考える補助線として」(「日本的Wellbeingを促進する情報技術のためのガイドラインの策定と普及」年次研究会、於：芝の家)	2018.3
	その他(単著)	「アフター・テレビジョンの考古学—ハプニング、宇宙中継、そして大阪万博」(『上を下へのジレット』劇場販売用パンフレット)	2017.5
	その他(単著)	「『〇〇離れ』に怯まない—ネット文化の造詣、放送への関心に」(『民間放送』2017年9月13日号、日本民間放送連盟編) 2頁	2017.9
	その他(単著)	「新しいライブ体験を理解するために—考古学的視座からのメディア論」(『触感コンテンツ専門誌 ふるえ』14号、NTT研究所編) 5-6頁	2017.12

名前	種別	書名, 論文名等, (掲載書名・誌名(巻号), 出版社・発行所), 頁	発行年月
飯田 豊	その他(単著)	「放送の“同時性”を手放すな—週刊誌との蜜月から省みる」(『民間放送』2018年3月13日号, 日本民間放送連盟編) 2頁	2018.3
	その他(共著)	「大阪万博の企業パビリオンにおけるテクノロジー表象に関する学際的研究」(馬場伸彦・粟谷佳司, 『AD STUDIES』61号, 公益財団法人吉田秀雄記念事業財団編) 49-50頁	2017.9
	その他(共著)	「イベント消費のありかたは SNS のシェアでどう変わるか?」(天野彬, 『ウェブ電通報』, https://dentsu-ho.com/articles/5912)	2018.3
	その他(司会・パネリスト)	「『次元の折り重なり』について, メディア史研究からの補助線」(第4回新視覚芸術研究会シンポジウム「デジタル時代の次元の折り重なり」, 於: 京都 MEDIA SHOP)	2017.8
	その他(司会・パネリスト)	「『ネットワーク社会』論の地層史—議論の補助線として」(日本マス・コミュニケーション学会秋季研究発表会 ネットワーク社会研究部会ワークショップ「ネットワーク社会の地層史」, 於: 成城大学)	2017.10
	その他(司会・パネリスト)	「中国のネットワーク社会とメディア研究」(日本マス・コミュニケーション学会第36期第2回研究会, 於: 成蹊大学丸ノ内サテライトオフィス)	2018.1
石倉 康次	著書(共著)	『ここまできた部落問題の解決「部落差別解消推進法」は何が問題か』(成澤榮壽他, 部落問題研究所編) 43-77頁	2017.9
	論文(単著)	「部落問題の解決過程と社会福祉研究の交点」(『立命館産業社会論集』53巻1号) 49-62頁	2017.6
	研究発表等(単独)	「社会調査から見た部落問題の解決過程」(第55回部落問題研究者全国集会全体会, 於: 同志社女子大学今出川キャンパス)	2017.10
石田賀奈子	著書(共著)	『社会的養護の子どもと措置変更—養育の質とパーマネンシー保障から考える—」(伊藤嘉余子・野口啓示他, 明石書店) 41-59頁	2017.11
	著書(共著)	『社会的養護内容』(伊藤嘉余子・小池由佳他, ミネルヴァ書房) 2-21頁	2017.12
	研究発表等(共同)	「里親への措置変更プロセスに関する事例分析—児童自立支援施設からの措置変更ケースに焦点を当てて—」(千賀則史・福田公教他, 日本子ども家庭福祉学会第18回大会, 於: 関西福祉科学大学)	2017.6
	研究発表等(共同)	「里親委託推進と里親支援の実態1 都道府県・指定都市主管課を対象としたアンケート調査から」(高橋順一・野口啓示他, 日本子ども家庭福祉学会第18回大会, 於: 関西福祉科学大学)	2017.6
	研究発表等(共同)	「里親等委託率に対して効果的な里親支援体制の検討—児童相談所および主管課へのアンケート調査結果から—」(高橋順一・野口啓示他, 日本社会福祉学会第65回秋季大会, 於: 首都大学東京南大沢キャンパス)	2017.10
	研究発表等(共同)	「社会的養護における措置変更の実態調査—措置変更における配慮事項に焦点を当てて—」(野口啓示・伊藤嘉余子, 日本社会福祉学会第65回秋季大会, 於: 首都大学東京南大沢キャンパス)	2017.10
	研究発表等(共同)	「社会的養護における措置変更の実態調査—自由記述からの分析—」(野口啓示・伊藤嘉余子, 日本社会福祉学会第65回秋季大会, 於: 首都大学東京南大沢キャンパス)	2017.10
	研究発表等(共同)	「母子生活支援施設における母子分離・母子再統合のプロセス—施設職員へのインタビュー調査からの考察—」(伊藤嘉余子・野口啓示他, 日本社会福祉学会第65回秋季大会, 於: 首都大学東京南大沢キャンパス)	2017.10
	研究発表等(共同)	「母子生活支援施設における母子分離・母子再統合のプロセス—施設職員へのインタビュー調査からの考察—」(伊藤嘉余子・野口啓示他, 日本社会福祉学会第65回秋季大会, 於: 首都大学東京南大沢キャンパス)	2017.10
石田 智巳	著書(共著)	『対話でつくる教科外の体育』(神谷拓他, 学事出版) 111-123頁	2017.10

名 前	種 別	書名, 論文名等, (掲載書名・誌名 (巻号), 出版社・発行所), 頁	発行年月
石田 智巳	著書(共著)	『スポーツの主人公を育てる体育・保健の授業づくり』(学校体育研究同志会編, 創文企画) 44-47・147-153頁	2018. 3
	論文(単著)	「教育改革の動向—安倍政権と日本会議」(『運動文化研究』34巻, 学校体育研究同志会編) 1-8頁	2017. 5
	論文(単著)	「体育科における『深い学び』とは」(『学校教育』1200号, 広島大学附属小学校編) 6-13頁	2017.11
	その他(単著)	「『資質・能力』論が体育授業にもたらす影響」(『体育科教育』65巻4号, 大修館書店) 42-45頁	2017. 4
市井 吉興	研究発表等 (単独)	“Creative reconstruction” and 2020 Tokyo Olympic Game: Disaster Capitalism, Celebration Capitalism and Olympic legacy (London, Rio, Tolyo Olympics Symposium, 於: Goldsmiths, University of London)	2017. 6
	研究発表等 (単独)	「創造的復興と2020東京オリンピック」(京都自由大学定例研究会, 於: 京都自由大学)	2017.12
	研究発表等 (単独)	「スポーツとミリタリズム: パラリンピックを問う」(京都自由大学定例研究会, 於: 京都自由大学)	2017.12
	そ の 他 (詞会・パネリスト等)	「『創造的復興』と2020東京オリンピック: 日本再編の『青写真』としてのオリンピックレガシー」(唯物論研究協会第40回大会, 於: 神戸大学鶴甲第二キャンパス)	2017.11
	そ の 他 (詞会・パネリスト等)	“Creative reconstruction” and 2020 Tokyo Olympic Game: Disaster Capitalism, Celebration Capitalism and Olympic legacy (2018 International Symposium East Asia and the World after Globalization, 於: Chung-Ang University)	2018. 2
伊藤 隆司	論文(単著)	「新しい学習指導要領と文学教育」(『語り合う文学教育』16号, 語り合う文学教育の会編) 9-15頁	2018. 3
乾 亨	論文(単著)	「地域住民組織は必要か・未来はあるか」(『都市問題』108号, 東京市政調査会編) 49-66頁	2017.10
漆原 良	研究発表等 (共同)	「サッカーにおけるキックの正確性に関するコーディネーション能力について」(日本体育学会第68回大会, 於: 静岡大学)	2017. 9
	研究発表等 (共同)	「サッカー選手におけるボール・キック動作の認知に伴う動作系列からの予測」(日本生理人類学会第76回大会, 於: 京都大学医学部構内芝蘭会館本館)	2017.11
江口 友朗	論文(単著)	「家計間での私的相互援助の実態の多国間比較: 持続可能な社会保障システム, コミュニティ, 幸福度を巡って」(『研究紀要: 食生活科学・文化, 環境に関する研究助成』30巻, 公益財団法人アサヒグループ学術振興財団) 185-196頁	2017. 5
	論文(単著)	「『競合的パラダイム論』から見た制度アプローチの展開とその理論的射程に関する一考察」(『季刊経済理論』54巻2号, 経済理論学会編) 32-39頁	2017. 7
	論文(共著)	“A Comparative Analysis of Aspects of Private and Autonomous “Mutual Assistance Payments” in Asian Countries: Its Economic Role and Income Redistribution Function in Thailand, Cambodia, South Korea, and Indonesia” (Sinudom Arissara・Yorihiko Ando, 『Proceedings of the International Conference on Education, Psychology, and Social Sciences』vol. 2 巻 No. 1 号) 114-129頁	2017. 8

名 前	種 別	書名, 論文名等, (掲載書名・誌名 (巻号), 出版社・発行所), 頁	発行年月
江口 友朗	論文(共著)	「社会秩序と行為選択を巡る史的検証: 19世紀から20世紀の経済学を対象とした一考察」(西本和見・田中啓太・松波京子, 『立命館産業社会論集』53巻2号) 31-42頁	2017. 9
	研究発表等 (共同)	“A Comparative Analysis of Aspects of Private and Autonomous ‘Mutual Assistance Payments’ in Asian Countries: Its Economic Role and Income Redistribution Function in Thailand, Cambodia, South Korea, and Indonesia” (Sinudom Arissara・Yorihiko Ando, International Conference on Education, Psychology, and Social Sciences: 2017, 於: Chulalongkorn University, Thailand)	2017. 8
	研究発表等 (共同)	「アジア諸国での所得再分配メカニズムとその分析射程: 私的な金銭的援助を巡る多国間比較を交えて」(安藤順彦, レギュレーションアプローチと政治経済学の研究サークル第6回研究会, 於: 摂南大学寝屋川市駅前活動ルーム)	2018. 2
	研究発表等 (共同)	「人的ネットワークを介した所得再分配の実態に基づく制度論的・ミクロ的基礎の検討: アジア諸国での個票調査とその解析に基づく実証から」(Sinudom Arissara・安藤順彦, 進化経済学会第22回全国大会, 於: 九州大学箱崎キャンパス)	2018. 3
遠藤 保子	論文(共著)	「ケニアの舞踊と舞踊のデジタル記録・解析・考察」(相原進・高橋京子, 『立命館産業社会論集』53巻4号) 85-102頁	2018. 3
	論文(共著)	「アフリカの舞踊に関するデジタル・アーカイブと教育的活用」(相原進・高橋京子, 『立命館産業社会論集』53巻4号) 69-84頁	2018. 3
	研究発表等 (単独)	「舞踊のデジタル・アーカイブと教育的活用～アフリカを事例として～」(第69回舞踊学会大会シンポジウム「記録と活用～三つの分野をめぐって」, 於: 日本女子大学目白キャンパス)	2017.12
	その 他 (詞会・パネリスト)	「アフリカの舞踊の記録と継承」(第26回日本ナイル・エチオピア学会学術大会公開シンポジウム『アフリカと日本の無形文化遺産～保護・継承・発展にむけて～」, 於: 富山大学)	2017. 4
大谷いづみ	研究発表等 (単独)	「『生きるに値しない生命』殺害の医療化と規範化」(第36回医学哲学・倫理学会大会 ワークショップ「正常さと異常さの境界」, 於: 帝京科学大学千住キャンパス)	2017.11
大谷 哲弘	著書(分担執筆)	『災害後の時期に応じた子どもの心理支援—被災体験の表現と分かち合い・防災教育をめぐって—」(富永良喜・遊間義一・兵庫教育大学連合大学院共同研究プロジェクト編, 誠信書房) 1-16頁	2018. 3
	論文(共著)	「日本語版児童用 Behavioral Inhibition System and Behavioral Activation System Scale (児童用 BIS/BAS 尺度) の作成と信頼性・妥当性の検討」(小関俊祐・小関真美他, 『認知行動療法研究』44巻1号, 一般社団法人日本認知・行動療法学会編) 29-39頁	2018. 1
	論文(共著)	「認知行動療法および行動コンサルテーションにおける高等学校での特別支援教育の現状と課題」(高田久美子・小関俊祐, 『心理学研究』8巻, 桜美林大学大学院心理学研究科編) 1-17頁	2018. 3
	論文(共著)	「いじめの予兆をとらえる視点—大学生から自由記述による収集した項目の分類—」(山本奨, 『岩手大学大学院教育学研究科研究年報』2巻, 岩手大学大学院教育学研究科編) 85-94頁	2018. 3

名前	種別	書名、論文名等、(掲載書名・誌名(巻号), 出版社・発行所), 頁	発行年月
大谷 哲弘	論文(共著)	「学校生活における自己の価値観と周囲に対する評価とのずれが中学生の適応に与える影響」(光成芳・山本奨, 『岩手大学大学院教育学研究科研究年報』2巻, 岩手大学大学院教育学研究科編) 59-70頁	2018.3
	論文(共著)	「中学生における居場所感の継時的変化に関する研究」(齋藤祐太・山本奨, 『岩手大学大学院教育学研究科研究年報』2巻, 岩手大学大学院教育学研究科編) 95-103頁	2018.3
	論文(共著)	「学校生活における異年齢集団活動が自己有用感へあたえる影響」(信夫辰規・山本奨・佐藤進, 『岩手大学大学院教育学研究科研究年報』2巻, 岩手大学大学院教育学研究科編) 125-134頁	2018.3
	論文(共著)	「高校生の進路意思決定と進路選択におけるソーシャルサポート知覚及び進路探索行動の関心の検討—求人票開示前後の就職希望者に焦点を当てて—」(山本奨, 『進路指導』91巻1号, 日本職業指導協会編) 3-13頁	2018.3
岡田 まり	論文(単著)	「社会福祉士のスーパーバイザー養成プログラムの開発と評価」(『保健の科学』59巻12号, 杏林書店) 812-816頁	2017.12
	研究発表等(共同)	「集合方式による個人スーパービジョンプログラムの評価と課題—スーパーバイザーへのフォーカス・グループ・インタビューからの分析—」(片岡靖子・野村豊子, 日本ソーシャルワーク学会第34回大会, 於: 北星学園大学)	2017.7
	研究発表等(共同)	「集合方式による個人スーパービジョン—社会福祉士のスーパーバイザー養成プログラムの開発と評価にむけて—」(野村豊子・片岡靖子, 日本ソーシャルワーク学会第34回大会, 於: 北星学園大学)	2017.7
	研究発表等(共同)	「スーパーバイザー養成プログラムの開発と評価(中間報告)—福祉現場でのスーパービジョン普及をめざして—」(野村豊子・片岡靖子・潮谷有二・潮谷恵美, 日本社会福祉学会第65回秋季大会, 於: 首都大学東京南大澤キャンパス)	2017.10
	研究発表等(共同)	「スーパーバイザー養成研修プログラムの評価と課題—スーパーバイザーのニーズ把握を通して—」(片岡靖子・野村豊子・潮谷有二・潮谷恵美, 日本社会福祉学会第65回秋季大会, 於: 首都大学東京南大澤キャンパス)	2017.10
岡本 尚子	研究発表等(単独)	「生理学的手法を用いて, 教育を科学的に考える」(けいはんなオープンイノベーションセンター第9回大学リレーセミナー, 於: けいはんなオープンイノベーションセンター)	2017.9
	研究発表等(単独)	「学習観察時における指導者の着眼点—現職教員と教員志望学生の違い—」(日本・中国 数学教育国際会議, 於: 立命館大学朱雀キャンパス)	2017.10
	研究発表等(共同)	「教師になっても折れない心・体・頭づくり」(「学び続ける教員」をテーマとするシンポジウム, 京都教育大学 藤森キャンパス)	2017.12
	研究発表等(共同)	「除法筆算観察時における教師の視線特徴」(黒田恭史, 第35回日本生理心理学会大会, 於: 江戸川大学)	2017.5
	研究発表等(共同)	「空間性系列順序記憶を担う神経基盤の検討」(肥後克己・葎阪満里子, 第35回日本生理心理学会大会, 於: 江戸川大学)	2017.5
	研究発表等(共同)	“Laterality Index plot of NIRS data clearly indicates the difference of the brain activation during Kraepelin performance test and the 2-digit calculation test” (Hideo Eda・Madoka Yamazaki・Yasufumi Kuroda, 14th ICB Polish-Japanese Seminar on Biomedical Engineering, 於: International Center of Biocybernetics in Warsaw)	2017.6

名前	種別	書名, 論文名等, (掲載書名・誌名(巻号), 出版社・発行所), 頁	発行年月
岡本 尚子	研究発表等 (共同)	“Pre-service teacher’s eye movements while observing children’s calculation process” (Yasufumi Kuroda, International Conference on Interdisciplinary Social Sciences, 於: 広島国際会議場)	2017. 6
	研究発表等 (共同)	「教師の計算観察過程における着眼点—視線計測による大学生との比較をとおして—」(黒田恭史, 数学教育学会2017年度秋季例会, 於: 山形大学小白川キャンパス)	2017. 9
	研究発表等 (共同)	「空間性ワーキングメモリ課題遂行時の方略利用」(空間性ワーキングメモリ課題遂行時の方略利用, 於: 久留米シティプラザ)	2017. 9
	研究発表等 (共同)	“Increase of the deoxyHb calculated by NIRS indicates artifact, that does not contradict BOLD theory of fMRI” (Hideo Eda・Madoka Yamazaki, Yasufumi Kuroda, Society for Neuroscience 2017, 於: Washington Convention Center in Washington)	2017.11
	研究発表等 (共同)	“We can know whether you are motivated or not by measuring brain activity” (Madoka Yamazaki・Hideo Eda・Yasufumi Kuroda, Society for Neuroscience 2017, 於: Washington Convention Center in Washington)	2017.11
	研究発表等 (共同)	「ICTを用いた算数教材制作における教員養成としての効果」(黒田恭史, 日本教育実践学会第20回研究会, 於: 佛教大学紫野キャンパス)	2017.11
	研究発表等 (共同)	「順序情報の保持と処理に関わる脳活動の変化」(肥後克己・苧阪満里子, 日本ワーキングメモリ学会大会, 於: 京都大学)	2017.12
	研究発表等 (共同)	「文章問題観察時の視線特徴—教職課程学生と非課程学生の比較—」(黒田恭史・鈴木麻希, 数学教育学会2018年度春季年会, 於: 東京大学駒場キャンパス)	2018. 3
小川 栄二	著書(共著)	『高齢期社会保障改革を読み解く』(芝田英昭他, 自治体研究社) 137-152頁	2017. 8
	論文(単著)	「訪問介護からの『軽度者』『生活援助』排除の動向とサービスの意義」(『ゆたかなくらし』426号, 全国老人福祉問題研究会編) 8-14頁	2018. 1
小澤 亘	論文(単著)	「『観光』をキーワードとする連携教育プログラムの実践—産社らしいアクティブ・ラーニングを求めて—」(『立命館産業社会論集』53巻1号) 7-27頁	2017. 6
	研究発表等 (共同)	「外国にルーツを持つ児童の読み困難度に関する基礎的研究—視機能評価及び読み能力の測定を通して—」(楠敬太・金森裕治, 日本デジタル教科書学会東京大会, 於: 青山学院大学青山キャンパス)	2017. 8
角田 将士	著書(分担執筆)	『授業が変わる! 新しい中学社会のポイント』(井田仁康・中尾敏朗・橋本康弘編著, 日本文教出版) 46-71・144-147頁	2017.10
	著書(分担執筆)	『新しい教職教育講座 教職教育編⑧ 総合的な学習の時間』(森田真樹・篠原正典編著, ミネルヴァ書房) 21-36頁	2018. 3
	論文(単著)	「『総合的な学習の時間』の改革(2)—地域社会を対象にしたカリキュラムをデザインする視点—」(『成安造形大学【教職課程報告】』1号, 成安造形大学教職課程編) 27-39頁	2018. 3
	論文(単著)	「新学習指導要領において求められる授業改善の視点—目標・内容の多層構造を意識したカリキュラムのデザインに向けて—」(『研究集録』54号, 大分県高等学校教育研究会地理歴史科公民科部会編) 39-42頁	2018. 3
	論文(単著)	「学習者の視点を踏まえた社会系教科授業づくりの課題—思考のプロセスとしての教材を求めて—」(『研究集録』54号, 大分県高等学校教育研究会地理歴史科公民科部会編) 30-38頁	2018. 3

名 前	種 別	書名、論文名等、(掲載書名・誌名(巻号)、出版社・発行所)、頁	発行年月
角田 将士	研究発表等 (単独)	「これからの社会科授業に求められるもの—『見方・考え方』の成長を意識して—」(2017年度立命館大学英語教員授業力向上研修会「アクティブ・ラーニングと教科の特殊性」, 於:立命館大学衣笠キャンパス)	2017.12
	その他(単著)	「『見方・考え方』を働かせた公民授業—主体的に判断・構想できる視点をどう授業に組み込むか『人間と現代社会の在り方を捉える視点—二系統の見方・考え方を連動させた授業づくりを』(『社会科教育』701号, 明治図書編) 36-37頁	2017.9
柏木 智子	著書(分担執筆)	「ケアする学校教育への挑戦」(末富芳編, 『子どもの貧困対策と教育支援—より良い政策・連携・協働のために』, 明石書店) 110-138頁	2017.10
	著書(分担執筆)	「総合的な学習の時間と地域学習」(森田真樹・篠原正典編, 『総合的な学習の時間』, ミネルヴァ書房) 188-203頁	2018.3
	論文(単著)	「共生社会の実現と教育経営の課題—子どもの貧困対策研究の立場から—」(『日本教育経営学会紀要』第59号巻, 日本教育経営学会編) 77-80頁	2017.6
	論文(単著)	「貧困問題を抱える子どもの文化資本と社会関係資本」(『九州教育経営学会研究紀要』第23号巻, 九州教育経営学会編) 5-9頁	2017.6
	論文(単著)	「『子ども食堂』を通じて醸成されるつながりの意義と今後の課題—困難を抱える子どもの参加と促進条件に焦点をあてて—」(『立命館産業社会論集』53巻3号) 43-63頁	2017.12
	論文(単著)	「『子ども食堂』を通じて醸成されるつながりの意義と今後の課題」(『教育政策がソーシャル・キャピタルに及ぼす影響に関する調査研究』, 科学研究費補助金基盤研究B, 研究代表者:露口健司) 64-83頁	2018.3
	論文(共著)	「困難層の学力を下支えする—I市立S小学校—」(高田一宏・高橋味央, 『高い成果を上げている地域・学校の取組・教育環境に関する調査研究』, 平成29年度文部科学省委託研究研究成果・報告書, 研究代表者:志水宏吉) 214-226頁	2018.3
	研究発表等 (単独)	「ケアする学校教育への挑戦—子どもの貧困とカリキュラム・マネジメント—」(福岡県小学校長会研修)	2017.6
	研究発表等 (単独)	「子どもの変容を促す地域学習」(大阪市小学校教員研修)	2017.7
	研究発表等 (単独)	「子ども食堂から都市とコミュニティの現在を考える」(先端社会研究所研究会, 於:関西学院大学)	2017.8
	研究発表等 (単独)	「『子どもの育ち』に向き合う学校経営の課題—『教育』と『福祉』の協働関係をめぐって—」(大塚学校経営研究会シンポジウム)	2018.3
	研究発表等 (共同)	「学校・家庭・地域間ソーシャル・キャピタルと保護者の主観的幸福感」(竹森香以, 日本学校改善学会第1回大会, 於:松山市教育研修センター愛媛県)	2018.1
	研究発表等 (共同)	「貧困問題を抱える地域における『町づくり』学習の可能性」(山田文乃, 日本学校改善学会第1回大会, 於:松山市教育研修センター, 愛媛県)	2018.1
	研究発表等 (共同)	「学校プラットフォームの進化に向けて—子どものための協働と学校文化の変革—」(横井葉子, シンポジウム 子どもの貧困対策のネクストステップを考える, 於:日本大学)	2018.1
加藤 雅俊	著書(分担執筆)	「オーストラリアにおける社会統合の変遷—分析的整理—」(新川敏光編, 『国民再統合の政治』, ナカニシヤ出版) 97-127頁	2017.8
	訳書(共訳)	ボブ・ジェソップ著『国家:過去, 現在, 未来』(中谷義和他, 御茶の水書房) 3-16・19-64・65-111・132-146頁	2018.3

名前	種別	書名, 論文名等, (掲載書名・誌名(巻号), 出版社・発行所), 頁	発行年月
加藤 雅俊	論文(単著)	「現代政治学におけるメタ理論の必要性—批判的实在論が問いかけるもの—」(『横浜法学』26巻2号, 横浜法学会編) 97-145頁	2017.12
	研究発表等 (単独)	「比較福祉国家論の到達点と課題および今後の展望—政治学の立場から—」(名古屋大学大学院経済学研究科課題設定型WS「社会経済研究」, 於: 名古屋大学)	2017.7
	研究発表等 (単独)	「比較福祉国家論の到達点と課題—社会統合の変遷の政治学的分析に向けて—」(比較福祉国家研究会, 於: 一橋大学)	2017.7
	研究発表等 (単独)	「現代政治学におけるメタ理論の必要性—批判的实在論が問いかけるもの—」(日本政治学会研究大会, 於: 法政大学市ヶ谷キャンパス)	2017.9
	研究発表等 (単独)	「『他の手段を用いた社会的保護』モデルの特徴と行方—比較福祉国家論における日本と豪州—」(CRAPE研究会, 於: 摂南大学)	2018.2
	研究発表等 (単独)	“On theoretical possibility of East Asian Welfare Regime: from the point of comparative politics” (International Symposium on “East Asia and the World after Globalization”, 於: 中央大学校, 韓国)	2018. .2
	その他(分担執筆)	「ISO活用の根拠②—政治学の視点から—」(『海洋環境の保全に配慮した資源開発を含む総合的海洋管理に向けた国際標準のあり方に関する研究開発』, YNU—DEEPS最終報告書) 197-210頁	2018.3
	その他 (司会・パネリスト等)	「新成長モデルとしての福祉戦略」討論者(日本比較政治学会研究大会, 於: 成蹊大学)	2017.6
金澤 悠介	著書(分担執筆)	「移動経験からみた現代日本の階層意識の構造」(数土直紀編著, 『格差社会のなかの自己イメージ』, 勁草書房) 118-139頁	2018.2
	論文(単著)	「地方公立大学における社会学教育の現状と課題: 首都圏との比較をもとに」(『社会学年報』46巻, 東北社会学会編) 101-105頁	2017.12
	論文(単著)	「『階層意識としての不公平感』再考: 潜在クラス分析によるアプローチ」(『社会学研究』101号, 東北社会学研究会編) 37-59頁	2018.3
	論文(単著)	「不公平感の構造変容: 2005年と2015年の時点間比較」(『2015年SSM調査報告書』意識I, 2015年社会階層と社会移動調査研究会編) 39-62頁	2018.3
	研究発表等 (単独)	「『ライフスタイルの社会学』の妥当性を検証する: 方法と知見の批判的検討」(第64回数理社会学会大会, 於: 札幌学院大学第一キャンパス)	2017.9
	研究発表等 (単独)	「不公平感の構造変容: 2005年と2015年の時点比較」(第90回日本社会学会大会, 於: 東京大学本郷キャンパス)	2017.11
	研究発表等 (単独)	“Social Mobility and Beliefs about Social Stratification in Contemporary Japan: An Approach Based on Quantitative Sociology” (2018 International Symposium: East Asia and the World after Globalization, 於: 中央大学校, 韓国)	2018.2
	研究発表等 (単独)	「世代間移動と階層帰属意識: 1955年SSM調査の分析から」(第65回数理社会学会大会, 於: 成蹊大学)	2018.3
その他(分担執筆)	「エージェント・ベース・モデル」(『社会学理論応用事典』, 日本社会学会理論応用事典刊行委員会編, 丸善出版) 512-515頁	2017.7	
金山 千広	論文(単著)	「体育で取り組むインクルーシブ教育の可能性: 共生社会に向けた発信」(『体育科教育』65巻7号, 大修館書店) 24-27頁	2017.6
	論文(単著)	「障がい者スポーツの現状とパラリンピックの課題」(『スポーツのひろば』578巻505号, 新日本スポーツ連盟編) 1-3頁	2018.3

名前	種別	書名、論文名等、(掲載書名・誌名(巻号)、出版社・発行所)、頁	発行年月
金山 千広	研究発表等 (単独)	「日本における障害者スポーツの現状と課題」(第6回 AISS(スポーツ連盟 附属スポーツ科学研究所)研究会, 於: キャンパスプラザ京都)	2017.9
	研究発表等 (共同)	“Service strategies of sport facilities for persons with disabilities in Japan: Current status and issues viewed from organizational characteristics” (Junji Nakanishi, ISAPA2017: 21st International Symposium of Adapted Physical Activity, 於: Daegu, South Korea)	2017.6
	研究発表等 (共同)	「障害者優先スポーツ施設の『ハブ』化機能の検討: インクルーシブな活動にみた施設類型化の試み」(中西純司, 日本体育学会第68回大会, 於: 静岡大学)	2017.9
	研究発表等 (共同)	「障がい者優先スポーツ施設利用者におけるスポーツ外傷・障害発生の関連要因」(竹内亮・植本章三他, 第1回障がい者スポーツ関係学会合同コンgres, 於: 早稲田大学)	2017.12
	研究発表等 (共同)	「教師の立場にみる小学校インクルーシブ体育の課題」(萩原大河, 第1回障がい者スポーツ関係学会合同コンgres, 於: 早稲田大学)	2017.12
金山 勉	論文(単著)	“Broadcasting Policy and Regulation in Transition before the Dawn of a New Paradigm: Comparing Digital Television in Transition between Japan and the U.S.” (『立命館産業社会論集』53巻2号) 1-15頁	2017.9
	研究発表等 (単独)	“Broadcasting Policy and Regulation in transition before dawn of a New Paradigm: Comparing Digital Television in Transition between Japan and the U.S” (The 14th ITS Asia-Pacific Conference, International Telecommunications Society Kyoto 2017, 於: 国立京都国際会館)	2017.6
唐鎌 直義	論文(単著)	「第6章 老化・寿命研究の社会的的重要性 4. 増え続ける貧困高齢者とその対策」(『実験医療・増刊 総力戦で挑む老化・寿命研究』第35巻20号, 羊土社) 199-204頁	2017.12
	その他(単著)	「貧困高齢者の増大—高齢人口急増下の公的年金抑制政策の矛盾—」(東京地裁年金裁判意見書, https://nenkin-kyotofuhonbu.jimdo.com/) 全28頁	2018.1
川口 晋一	著書(分担執筆)	『アメリカ文化事典』(アメリカ学会編, 丸善出版) 602-603・604-605・608-609頁	2018.1
権 学俊	論文(単著)	「現代日本における国家主義・排外主義に関する一考察」(『日本研究』29号, 高麗大学グローバル日本研究院編) 357-394頁	2018.2
	論文(単著)	「近代日本における身体の国民化と規律化」(『立命館産業社会論集』53巻4号) 31-49頁	2018.3
	研究発表等 (単独)	「国民体育大会が地域社会に及ぼす影響と問題点」(滋賀県職員組合定期大会特別講演, 於: 滋賀県庁)	2017.7
	研究発表等 (単独)	「なぜ, 国民体育大会が問題なのか」(彦根市民フォーラム2017, 於: 彦根市文化プラザメッセホール, 滋賀県)	2017.7
	研究発表等 (単独)	「日本のオリンピックを考える—政治性と利権を中心として」(世明大学人文社会学講座・特別講演, 於: 世明大学校, 韓国)	2017.11
	研究発表等 (単独)	「朝鮮人特攻隊員に対する日韓両国社会に認識と受容」(韓国学術財団研究会, 於: 提川市立図書館, 韓国)	2017.11
	研究発表等 (単独)	「東京オリンピックの政治性と国民統合」(京都自由大学定例研究会, 於: 京都自由大学)	2017.12

名 前	種 別	書名, 論文名等, (掲載書名・誌名 (巻号), 出版社・発行所), 頁	発行年月
黒田 学	著書(編著)	『アジア・日本のインクルーシブ教育と福祉の課題』(クリエイツかもがわ) 3-11・16-30・39-48・80-90・180-193頁	2017.11
	著書(分担執筆)	『放課後等デイサービスハンドブック—子どもたちのゆたかな育ちのために』(障害のある子どもの放課後保障全国連絡会編, かもがわ出版) 150-162頁	2017. 6
	訳書(共訳)	スザンヌ E. エヴァンス著『障害者の安楽死計画とホロコースト—ナチスの忘れ去られた犯罪』(黒田学・清水貞夫監訳, クリエイツかもがわ) 43-98・203-216頁	2017.12
	研究発表等 (共同)	「カンボジアとベトナムの特別ニーズ教育の実情(その2)—ホーチミン市での調査を踏まえて—」(間々田和彦, 日本特殊教育学会第55回大会, 於: 名古屋国際会議場)	2017. 9
	研究発表等 (共同)	「ベトナムとカンボジアの特別ニーズ教育の動向—インクルーシブ教育をめぐる—」(間々田和彦・藤井克美, 日本特殊教育学会第55回大会, 於: 名古屋国際会議場)	2017. 9
	その他(単著)	「ポーランドの障害児教育事情」(『研究所通信 手をつなぐ』351号, 滋賀民主教育研究所発行) 6-7頁	2017. 9
そ の 他 (同会・パリスト等)	「東南アジアにおけるインクルーシブ教育をめぐる動向と課題—ベトナムとカンボジアを軸に—」(日本特別ニーズ教育学会第23回研究大会, 於: 埼玉大学)	2017.10	
小泉 秀昭	研究発表等 (単独)	「コンシューマー・インサイト発見のための方法論的考察—パースとホワイトヘッドを参考にして—」(日本広告学会第48回全国大会, 於: 立正大学)	2017.11
斎藤 真緒	研究発表等 (単独)	“Peer Support Groups for Male Carers in Japan” (7th International Carers Conference, 於: Adelaide Convention Centre, South Australia)	2017.10
	その他(単著)	「勤労者教育」(「現代のこぼし」, 『京都新聞』2017年7月5日夕刊) 1頁	2017. 7
	その他(単著)	「子ども・若者ケアラー」(「現代のこぼし」, 『京都新聞』2017年9月12日夕刊) 1頁	2017. 9
	その他(単著)	「平山亮著『介護する息子たち—男性性の視点とケアのジェンダー分析—』(『社会福祉研究』130号, 鉄道弘済会福祉センター弘済会館編) 132頁	2017.10
	その他(単著)	「ケアラー支援」(「現代のこぼし」, 『京都新聞』2017年11月21日夕刊) 1頁	2017.11
	その他(単著)	「デートDVとスマホ」(「現代のこぼし」, 『京都新聞』2018年1月25日夕刊) 1頁	2018. 1
坂田 謙司	論文(単著)	「私設電話と『声の規格化』を巡る社会史—民間電話交換手と養成教育が生み出したもの—」(『立命館産業社会論集』53巻4号) 15-29頁	2018. 3
	研究発表等 (単独)	「地域メディアとしての街頭放送—北海道の街頭放送を事例として」(日本マス・コミュニケーション学会, 於: 新潟大学五十嵐キャンパス)	2017. 6
崎山 治男	著書(分担執筆)	「感情労働と疎外」(友枝敏雄・浜日出夫・山田真茂留編『社会学の力』, 有斐閣) 92-95頁	2017. 6
	論文(単著)	「生の感情労働化と現代社会: 労働の感情労働化とそのゆくえ」(『立命館産業社会論集』53巻2号) 17-29頁	2017. 9
櫻井 純理	論文(単著)	「地域政策としての就労支援を比較する視点—生活困窮者自立支援事業を中心に」(『生活困窮者自立支援と地域・自治体の課題—福祉政策だけに留まらない自立支援—』公募研究シリーズ No.71, 全労済協会) 68-80頁	2017.11

名前	種別	書名、論文名等、(掲載書名・誌名(巻号)、出版社・発行所)、頁	発行年月
櫻井 純理	研究発表等 (単独)	「過労死のない社会を目指す『働き方改革』とは？」(過労死等防止対策推進シンポジウム、於：大津市勤労福祉センター)	2017.11
櫻谷真理子	書評(単著)	「井上寿美・笹倉千佳弘編著『虐待ゼロのまちの地域養護活動』生活書院」(『図書新聞』第3343号) 3頁	2018. 3
笹野恵理子	著書(編著)	『初等音楽科教育(MINERVAはじめて学ぶ教科教育第7巻)』(吉田武男監修、ミネルヴァ書房) 全248頁	2018. 3
	著書(分担執筆)	『最新 初等科音楽教育法 2017年告示「小学校学習指導要領」準拠』(初等音楽科教育研究会編、音楽の友社) 20-27頁	2018. 2
	研究発表等 (単独)	「学校音楽カリキュラム経験の諸相—教師と学習者の経験の差異—」(第2回近現代教育実践史研究会、於：神戸ベイシェラトン)	2017. 6
佐藤 詩恵	研究発表等 (単独)	“There's planets evolving around: pragmatic motivations for non-concord in the existential construction” (The Expression of Knowledge: Epistemicity and Beyond、於：The University of Helsinki)	2017. 8
	研究発表等 (単独)	“A corpus-based study of the use of “so” in academic discourse: A comparative analysis of native speakers and Japanese EFL learners” (The Hiroshima JALT (The Japan Association for Language Teaching) 2017 Conference、於：Hiroshima YMCA)	2017.12
佐藤 春吉	論文(単著)	「政治的討議における『世界の共有の意味』：事実の真理と実在論—ポストモダン状況に抗して」(『唯物論』91号、東京唯物論研究会編) 26-44頁	2017.11
鎮目 真人	著書(分担執筆)	『転げ落ちない社会 困窮と孤独をふせぐ制度戦略』(宮本太郎編著、勁草書房) 255-285頁	2017.10
	論文(単著)	「年金制度の縮減と維持・持続局面における制度改革類型—2012年改革と2016年改革を中心にして—」(『関西社会福祉研究』4号、関西社会福祉学会編) 17-29頁	2018. 3
	書評(単著)	「金成垣『福祉国家の日韓比較—「後発国」における雇用保障・社会保障』」(『福祉社会学研究』14号、福祉社会学会編) 193-197頁	2017. 5
	研究発表等 (単独)	“New Policy Idea, Social Discourse and Unpopular Pension Reforms in Japan” (14th East Asian Social Policy conference、於：名古屋大学)	2017. 8
	研究発表等 (単独)	「年金制度の縮減改革における政治的言説、新しい政策アイデアと改革類型」(第13回社会保障国際論壇、於：南京大学)	2017. 9
杉本通百則	論文(単著)	「イギリスにおけるアスベスト管理規制の特質—『アスベスト管理規則』の実効性確保の条件—」(『立命館政策科学別冊アスベスト特集号2017年度版』、立命館政策科学学会編) 171-199頁	2017. 7
	研究発表等 (単独)	「イギリスにおけるアスベスト管理規制の特質」(日本環境学会第43回研究発表会、於：北海学園大学)	2017. 7
	研究発表等 (単独)	「フラウンホーファー応用研究促進協会(Industrie 4.0) 調査報告」(日本科学史学会技術史分科会、於：大阪市立大学梅田サテライト)	2018. 3
住家 正芳	論文(単著)	「宗教経済学における合理性」(『宗教研究』91巻2号、日本宗教学会) 125-151頁	2017. 9
高橋 顕也	翻訳(単著)	クレメンス・クローネベルク著「第二次世界大戦におけるユダヤ人の救出(1)」(『社会システム研究』21巻、京都大学大学院人間・環境学研究科/京都大学総合人間学部社会システム研究刊行会編) 47-83頁	2018. 3

名前	種別	書名, 論文名等, (掲載書名・誌名(巻号), 出版社・発行所), 頁	発行年月
高橋 顕也	研究発表等 (単独)	「分化理論の系譜と『社会』の語り方」(日本社会学史学会第57回大会, 於: 広島大学)	2017. 6
	研究発表等 (単独)	「ルーマン・システム理論における Gesellschaft 概念の有用性の検討」(日本社会学会第90回大会, 於: 東京大学)	2017.11
	その他(単著)	「書評に就いて『社会システムとメディア—理論社会学における総合の試み—』」(『ソシオロジ』189号, 社会学研究会編) 154-158頁	2017. 6
竹内 謙彰	論文(単著)	「『三つの願い』 質問はどのような心的内容に迫りうるのか」(『立命館産業社会論集』53巻2号) 63-75頁	2017. 9
	研究発表等 (共同)	「自閉症スペクトラム児の多様性と自主性を尊重した療育プログラムの開発 (10) —幼児期: 参加児の他者意識を高めるための見通しをもった遊びの工夫—」(小山田真理子・石田育子・荒木穂積他, 日本自閉症スペクトラム学会第16回研究大会, 於: 福岡国際会議場)	2017. 9
	研究発表等 (共同)	「自閉症スペクトラム児の多様性と自主性を尊重した療育プログラムの開発 (11) —小学校低学年: 仲間意識を深めるための遊びの工夫とスタッフの関わり方—」(合川茉莉花・池永弥生・松元佑他, 日本自閉症スペクトラム学会第16回研究大会, 於: 福岡国際会議場)	2017. 9
	研究発表等 (共同)	「自閉症スペクトラム児の多様性と自主性を尊重した療育プログラムの開発 (12) —小学校高学年・中学生: 参加児間の『ルール共有』と『協力』を重視した活動の工夫—」(日本自閉症スペクトラム学会第16回研究大会, 於: 福岡国際会議場)	2017. 9
	研究発表等 (共同)	「思春期・青年期の自閉症スペクトラム児の療育プログラムの開発 (その3) —継続的な交流関係からみる自主性と協同性の変容の検討—」(中塚優介・麻生祐貴・平松祐佳他, 日本自閉症スペクトラム学会第16回研究大会, 於: 福岡国際会議場)	2017. 9
武田 淳	論文(単著)	“Travel destination as a global cosmopolitan site: Australians in the Japanese ski resort Niseko, Hokkaido” (Social Alternatives 36巻3号) 50-56頁	2017
	研究発表等 (単独)	“Media induced mobility: The case of Japanese students in Korea” (Tenth Global Studies Conference: Global Mobilities, 於: National University of Singapore, Singapore)	2017. 6
竹濱 朝美	研究発表等 (単独)	“Supply-demand balance in the western Japan electricity grid with high PV penetration scenarios” (21th REFORM Group Meeting, 於: Schloss Leopoldskron in Salzburg, Austria)	2017. 8
	研究発表等 (単独)	「電力システム改革下の再生可能エネルギー普及の課題 (1) —風力・太陽光発電の系統連系の制度と運用, 日本とドイツの比較から—」(環境経済・政策学会 2017年大会, 於: 高知工科大学永国寺キャンパス)	2017. 9
	研究発表等 (共同)	「太陽光発電の大量連系による西日本管区の電力需給と電源構成メリットオーダーへの影響分析」(歌川学, 日本環境学会第43回研究発表会, 於: 北海学園大学)	2017. 7
	研究発表等 (共同)	“Statistical analysis of large-scale photovoltaic integration and demand-supply balance in the western Japan grid, implications for grid integration policies for variable renewable energies” (Manabu Utagawa, 2nd German-Japanese Workshop on Renewable Energies, 於: German Aerospace Center and University of Stuttgart, Germany)	2017. 7

名 前	種 別	書名, 論文名等, (掲載書名・誌名 (巻号), 出版社・発行所), 頁	発行年月
竹濱 朝美	その他(単著)	「風力/太陽光発電の地域間送電と揚水発電を考慮した電力需給に係る予備的考察」(第39回 風力エネルギー利用シンポジウム発表原稿集, 日本風力エネルギー学会) 504-507頁	2017.12
田村 和宏	著書(分担執筆)	『医療的ケア児等支援者育成研修テキスト』(末光茂・大塚晃監修, 中央法規出版) 122-137・165-188頁	2017.6
	著書(分担執筆)	『医療的ケア児等コーディネーター養成研修テキスト』(末光茂・大塚晃監修, 中央法規出版) 97-103頁	2017.6
	著書(分担執筆)	「重複ケア・医療的ケアの役割と教育」(黒田学編, 『世界の特別ニーズ教育と社会開発シリーズ4 アジア日本のインクルーシブ教育と福祉の課題』, クリエイツかもがわ) 126-139頁	2017.7
	論文(単著)	「この子らを世の光に―糸賀一雄の思想に焦点をあてて―」(『人権と部落問題』69巻10号, 公益社団法人部落問題研究所編) 25-33頁	2017.8
	論文(共著)	「発達保障をめぐる課題2018―発達保障をめぐる動向と私たちの課題―」(安藤史郎・栗本葉子他, 『人間発達講座ひととしていきる―あなたに語る発達のものごと―』5-22巻, 人間発達研究所) 6-23頁	2018.2
	研究発表等(共同)	「障害のある子どもを含めた集団づくり」(第42回全国学童保育指導員学校, 於:三重大学)	2017.6
	その他(共著)	「地域包括ケアシステムの整備とケアマネジメントシステム」(福井小紀子・牛谷義秀他, 平成29年度老人保健事業推進等補助金老人健康保健増進事業『ケアマネージャーの資質の向上のための方策等に関する調査研究事業』報告書, 厚生労働省) 52-55頁	2018.3
丹波 史紀	著書(共著)	『子どもの貧困に向きあえる学校づくり―地域のなかのスクールソーシャルワーク』(鈴木庸裕・村井拓哉他, かもがわ出版) 14-27頁	2018.1
	論文(単著)	「シンポジウム『生活再建と貧困・復興格差』に向けて」(『貧困研究』Vol.18号, 貧困研究会編) 4-13頁	2017.6
	論文(単著)	「自治, 福祉の視点からみた『避難指示解除』―福島・6年後の帰還―」(『住民と自治』651号, 自治体問題研究所編) 27-31頁	2017.7
	論文(単著)	「南相馬市ヒアリングレポート」(『21世紀ひょう』2017特別号, 公益財団法人ひょうご震災記念21世紀研究機構編) 62-68頁	2017.9
	論文(単著)	「原子力災害からの再生―『尊厳』を回復できる復興政策を」(『都市問題』109巻3号, 公益財団法人後藤・安田記念東京都市研究所編) 8-20頁	2018.3
	その他(単著)	「ふくしまの災害復興から貧困を考える」(『月刊地域と人権』398号, 全国地域人権運動総連合編) 10-12頁	2017.6
	その他(単著)	「ひとり親家族の社会的自立に向けた課題」(『月刊福祉』100巻9号, 全国社会福祉協議会) 52-53頁	2017.9
	その他(単著)	「インタビュー復興への展望:被災地のコミュニティー再生は将来の日本のモデルケースとなる」(『家の光』94巻3号, 家の光協会編) 24-25頁	2018.3
	その他(同会・バリエ等)	「シンポジウム『地域に支えられた立ち直り支援～それって, 説明してください～』」(日本更生保護学会第6回大会, 於:コラッセ福島)	2017.12
筒井 淳也	著書(共著)	『社会学入門:社会とのかかわり方』(前田泰樹, 有斐閣) 全276頁	2017.10
	著書(分担執筆)	「市民社会と公共性」(盛山和夫・金明秀・佐藤哲彦・難波功史編『社会学入門』, ミネルヴァ書房) 49-64頁	2017.4

名前	種別	書名、論文名等、(掲載書名・誌名(巻号)、出版社・発行所)、頁	発行年月
筒井 淳也	著書(分担執筆)	「エイジェンシーと構造」(友枝敏雄・浜日出夫・山田真茂留編『社会学の力：最重要概念・命題集』、有斐閣) 52-55頁	2017.6
	論文(単著)	「教育社会学への期待・メッセージ」(『教育社会学研究』100巻、日本教育社会学会) 125-131頁	2017.8
	研究発表等(単独)	「研究者とワーク・ライフ・バランスの今後」(立命館大学人間科学研究所年次総会「研究者のライフ・イベントとワーク・ライフ・バランス」、於：立命館大学大阪いばらきキャンパス)	2017.12
	研究発表等(単独)	“Persistent Gender Division of Labor in Japan: its Causes and a Prospect” (Korean Sociological Association Annual Meeting, 於：Seoul National University, Seoul, Korea)	2017.12
	その他(単著)	「働くこと、家庭をもつこと：生活環境の不安定化と保守化」(『都市計画』66巻3号、日本都市計画学会編) 24-27頁	2017.5
	その他(単著)	「『家族を大切にすること』ことがはらむ矛盾」(『人権のひろば』115巻、人権擁護協力会編) 1-3頁	2017.5
	その他(単著)	「提言：家族キャリアの展望を可能にする働き方を」(『日本労働研究雑誌』689巻、労働政策研究・研修機構編) 1頁	2017.12
津止 正敏	論文(単著)	「介護者が前向きに生きられる社会を」(『女性のひろば』459号、日本共産党中央委員会編) 66-71頁	2017.5
	論文(単著)	「家族介護者を支援する一支援の根拠と枠組み—」(『老年精神医学雑誌』第28巻第8号、日本老年精神医学会編) 918-927頁	2017.8
	研究発表等(単独)	「仕事と介護が両立するということ—家族等を介護する男性社員の現状と支援の在り方について—」(一般社団法人日本経済団体連合会雇用政策委員会、於：経団連会館)	2017.12
	その他(単著)	「独りで耐えないで」(『読売新聞』2017年8月2日夕刊) 3頁	2017.8
	その他(単著)	「『介護』をめぐる課題と展望⑥」(『生産性新聞』第2539号、公益財団法人日本生産性本部編) 7頁	2017.9
	その他(単著)	「男性介護者の支援のあり方や課題を聞く」(『経団連タイムス』3346号、日本経済団体連合会編) 2頁	2018.1
	その他(単著)	「男性が介護を問う意味—男女共同参画の時代を生きる—」(『びゅあ』51号、山梨県男女共同参画推進センター編) 3頁	2018.2
	その他(司会・パネリスト)	「認知症に関わる当事者団体の役割と今後の課題」(第32回国際アルツハイマー病協会国際会議、於：国立京都国際会館)	2017.4
富永 京子	著書(分担執筆)	『社会学の力—最重要概念・論題集』(友枝敏雄・浜日出夫・山田真茂留編、有斐閣) 128-131頁	2017.6
	論文(単著)	「カウンターカルチャーとしての旅—社会運動のツーリストティックな側面を通じて」(『立命館言語文化研究』29巻3号) 175-190頁	2018.3
	論文(単著)	「社会運動のメディア・リテラシー—日常からの逸脱か、それとも日々の延長か」(『世界思想』45号、世界思想社編集部編) 86-90頁	2018.3
	研究発表等(単独)	「ポリティカル・ツーリズムとしての社会運動」(関東社会学会第65回大会、於：日本大学文理学部キャンパス)	2017.6
	研究発表等(単独)	“Consumer Movement in Fluidarity and Individuality: Comparing Individual Practices of Consumer Movement” (6th French Network for Asian Studies International Conference, 於：Sciences Po, Paris)	2017.6

名 前	種 別	書名、論文名等、(掲載書名・誌名(巻号)、出版社・発行所)、頁	発行年月
富永 京子	研究発表等 (単独)	「社会運動としてのツーリズム—カウンターカルチャーからサブカルチャーへ」(北海道大学メディア・ツーリズム研究センター講演会、於：北海道大学)	2017.8
	研究発表等 (単独)	「グローバル化時代の社会運動—サミット・プロテストからオキュパイ・ムーブメントへ」(民主主義理論研究会、於：駒澤大学)	2017.8
	研究発表等 (単独)	“From Investment to Consumption: Contemporary Consumer Movements by Youth” (The 2nd Japan-Korea CSR Workshop: Collaboration among the Government, Business, and Civil Society, 於：立命館大学衣笠キャンパス)	2017.9
	研究発表等 (単独)	“Protest Tourism: Solidarity and Protest in the Era of Individualization in East Asia” (OTHER ASIANS, ASIA'S OTHERING – Inclusionary Utopias, Exclusionary Politics, 於：Monash University, Melbourne)	2017.10
	研究発表等 (単独)	“From Counterculture to Subculture: The Study of Social Movement in Japan after the 3.11 Disaster” (Monash Asia Institute and Japanese Studies Centre Special Public Seminar, 於：Monash University, Clayton)	2017.11
	研究発表等 (単独)	「社会運動ツーリズム—『個人化』時代における抵抗と連帯の旅」(第90回日本社会学会大会、於：東京大学本郷キャンパス)	2017.11
	研究発表等 (単独)	“From the Street to Retreat: the Case of Anti-national Security Bill Movement in Japan 2015” (The International Conference: Problems and Perspectives for Japan in a Changing World: Thirty Years of Japanese Studies in Poznan, 於：Adam Mickiewicz University, Poland)	2017.12
仲井 邦佳	その他(単著)	「スペイン語講座 (29) 様態の接続詞 como 等の用法について」(『Acueducto』第29号) 32頁	2017.5
	その他(単著)	「スペイン語講座 (30) 原因の接続詞 porque 等の用法について」(『Acueducto』第30号) 32頁	2017.8
	その他(単著)	「スペイン語講座 (31) 目的の接続詞 para que 等の表現について」(『Acueducto』第31号) 34頁	2017.11
	その他(単著)	「スペイン語講座 (32) 譲歩の接続詞 aunque 等の表現について」(『Acueducto』第32号) 34頁	2018.1
中井 美樹	著書(単著)	“Changes in couples' breadwinning patterns and wife's economic role in Japan” (Universitas Studiorum, Mantora) 1-6頁	2017.9
	著書(共著)	“Optimization of the Listwise Deletion Method” (Graziano Vernizzi, Universitas Studiorum, Mantora) 1-6頁	2017.9
	論文(単著)	“Social Differentiation of Cultural Taste and Practice in Contemporary Japan: Nonhierarchical Asymmetric Cluster Analysis.” (Data Science: Innovative Developments in Data Analysis and Clustering, Francesco Palumbo・Angela Montanari・Maurizio Vichi<Eds>) 149-159頁	2017.8
	研究発表等 (単独)	“Changes in the Gendered Division of Labor and Women's Economic Contributions within Japanese Couples” (第15回国際分類学会連合会議、於：東海大学高輪キャンパス)	2017.8
	研究発表等 (単独)	“Changes in couples' breadwinning patterns and wife's economic role in Japan” (Conference of the Classification and Data Analysis Group, 於：University of Milano-Bicocca, Milano)	2017.9

名 前	種 別	書名, 論文名等, (掲載書名・誌名 (巻号), 出版社・発行所), 頁	発行年月
中井 美樹	研究発表等 (共同)	“Optimization of the Listwise Deletion Method” (Graziano Vernizzi, Conference of the CLAssification and Data Analysis Group, 於: University of Milano-Bicocca, Milano)	2017. 9
中西 純司	著書(分担執筆)	「3-3 スポーツマーケティングの本質」「3-4 スポーツマーケティングの理念・倫理」「6-1 有形プロダクトと無形プロダクト」「6-2 スポーツプロダクトの構造」(仲澤真・吉田政幸編著, 『よくわかるスポーツマーケティング』, ミネルヴァ書房) 22-25頁・46-49頁	2017.11
	著書(分担執筆)	「第1節 エリアサービス事業」「第2節 プログラムサービス事業」「第4節 体育・スポーツ事業をめぐるマーケティング志向」(柳沢和雄・木村和彦・清水紀宏編著, 『テキスト 体育・スポーツ経営学』, 大修館書店) 58-63頁・64-75頁・90-97頁	2017.11
	論文(共著)	“An Attempt to Grasp the Contents of Judo through Development of an “Established Scale of the Basic Principle of Ju”” (Atsutoshi Ariyama・Kohei Shimamoto・Junji Nakanishi, International Journal of Sport and Health Science 15巻, 日本体育学会編) 145-159頁	2017.11
	研究発表等 (単独)	「スポーツの質的發展を支える『スポーツプロモーション』への期待」(大会組織委員会企画学際的シンポジウム1 「大学と地域の協働によるソーシャルイノベーションの可能性」, 日本体育学会第68回大会, 於: 静岡大学)	2017. 9
	研究発表等 (共同)	「障害者優先スポーツ施設の『ハブ』化機能の検討: インクルーシブな活動にみた施設類型化の試み」(金山千広・中西純司, 日本体育学会第68回大会, 於: 静岡大学)	2017. 9
	研究発表等 (共同)	「柔の原理の変質と柔道のスポーツ化」(有山篤利・島本好平・中西純司, 日本体育学会第68回大会, 於: 静岡大学)	2017. 9
	研究発表等 (共同)	「市町村行政職員の『スポーツ政策経営』力量に関する概念的研究」(岡村誠・中西純司, 日本体育・スポーツ経営学会第41回大会, 於: 北翔大学)	2018. 3
中西 典子	研究発表等 (単独)	「地方分権およびローカリズムにみる地域の公共性の所在」(地域創成研究会, 於: 金沢大学)	2017. 6
中西 仁	著書(共編著)	『初等社会科教育』(小林隆, ミネルヴァ書房) 1-15・59-74頁	2018. 3
永野 聡	論文(単著)	「地域資源を基点とした中山間地域でのシゴト化に向けた取組みの実態と次世代の担い手育成支援に関する研究」(『パーソナルファイナンス研究』4巻, パーソナルファイナンス学会編) 53-60頁	2017.12
	論文(共著)	「東日本大震災におけるゆりあげ港朝市の復興過程と地域貢献に関する研究—災害危険区域内の商業活動を構成する施設と組合の考察—」(日誌博文・山田俊亮, 『日本建築学会計画系論文集』82巻741号, 日本建築学会編) 2865-2874頁	2017.11
	研究発表等 (単独)	「木曾岬にぎわい市(仮称)を通じた地域人材育成プログラムに関する調査研究」(地域活性学会第9回研究大会, 於: 鳥根県立大学浜田キャンパス)	2017. 9
永橋 爲介	そ の 他 (司会・パネリスト)	「豊中市『環境フォーラム2017』」(於: 千里文化センター)	2017. 9
	そ の 他 (司会・パネリスト)	「子ども・未来・まちづくり」(第2回市民活動交流会, 於: 京都市北いきいき市民活動センター)	2018. 3
仲間 裕子	論文(単著)	「C.D. フリードリヒのロマン主義的風景と文学」(『立命館言語文化研究』29巻4号) 171-183頁	2018. 3

名 前	種 別	書名, 論文名等, (掲載書名・誌名 (巻号), 出版社・発行所), 頁	発行年月
仲間 裕子	研究発表等 (単独)	“Invisible air: How it is made visible in Japanese art” (“Landscapes in Art, Theory, and Practice across Media, Time, and Place”: Joint Workshop of Kobe University, Ritsumeikan University and East ASian Art History, 於: FU Berlin)	2017. 6
	研究発表等 (単独)	“Das Landschaftsbild bei C. D. Friedrich und japanischen Meistern: Ein kulturwissenschaftlicher Vergleich” (於: Alte Nationalgalerie, Berlin)	2017. 9
	研究発表等 (単独)	「ディレクタントイズムと近代社会: カール・グスタフ・カールスの芸術理念」(ドイツ近代芸術におけるディレクタントイズム, 於: 東京藝術大学)	2017.10
中村 正	著書(共訳)	ヘルムート・R・ワーグナー著『アルフレッド・シュッツ—他者と日常生活世界の意味を問い続けた「知の巨人」』(佐藤嘉一監訳, 中村正・森重拓三訳, 明石書店) 全549頁	2018. 3
	著書(分担執筆)	『犯罪被害者と刑事司法 (指宿信他編, シリーズ刑事司法を考える第4巻, 岩波書店) 254-275頁	2017. 9
	論文(単著)	「臨床社会学の方法 (17) 踏みとどまる力—四苦八苦のなかを生きる—」(『対人援助学マガジン』 8巻1号, 対人援助学会編) 21-30頁	2017. 6
	論文(単著)	「臨床社会学の方法 (18) 回復 (リカバリー)」(『対人援助学マガジン』 8巻2号, 対人援助学会編) 24-34頁	2017. 9
	論文(単著)	「子どもを虐待する父親のグループワーク」(『精神療法』 43巻5号, 金剛出版) 71-75頁	2017.10
	論文(単著)	「臨床社会学の方法 (19) 社会病理学のゆくえ—苦悩 (パトス) が社会的であることを意味づける学知のために」(『対人援助学マガジン』 8巻3号, 対人援助学会編) 25-34頁	2017.12
	論文(単著)	「臨床社会学の方法 (20) 加害の語りを聴くこと」(『対人援助学マガジン』 8巻4号, 対人援助学会編) 22-31頁	2018. 3
	研究発表等 (単独)	“JAPANESE STYLE OF THERAPEUTIC JURISPRUDENCE II: HOW CAN WE PUT THE NEW WINE INTO THE OLD BOTTLE?: Some Significant Points of Considering Japanese Experience of Therapeutic Jurisprudence for Developing Theory and Practice in Diversity” (International Academy of Law and Mental Health, XXXVth International Congress on Law and Mental Health, 於: University of Karlova, Praha)	2017. 7
	研究発表等 (単独)	「治療的司法・正義の実践と理論」(第18回法と心理学会, 於: 成城大学)	2017.10
	研究発表等 (共同)	「男性性の傷つきに敏感なジェンダー臨床論のために (その6) —男性性をめぐるある青年の生きづらさの体験分析—」(國友万裕, 第9回対人援助学会, 於: 立命館大学衣笠キャンパス)	2017.11
	その他(単著)	「関係性を重視すべきこと—学校で性やジェンダーに関する指導をする際の配慮と工夫」(『心とからだの健康』 22巻11号, 健学社) 9頁	2018. 2
	そ の 他 (同会・バリスト等)	「アディクションからの回復支援のネットワークの可能性—司法と福祉, 理論と実践は, 分かりあえるのか?」(第2回犯罪学合同大会・公開シンポジウム, 於: 國學院大学渋谷キャンパス)	2017. 9
	そ の 他 (同会・バリスト等)	「『わたし』をひらく—生きることについての知を協働で編むことと社会問題研究」(日本社会病理学会第33回大会, 於: 國學院大学渋谷キャンパス)	2017. 9
	そ の 他 (同会・バリスト等)	「動物と対人援助はどう関係するか—地域で考える動物と人間のかかわり方—」(第9回対人援助学会, 於: 立命館大学衣笠キャンパス)	2017.11

名前	種別	書名, 論文名等, (掲載書名・誌名(巻号), 出版社・発行所), 頁	発行年月
根津 朝彦	著書(分担執筆)	「言論の自由と自主規制の相克—『不偏不党』の形成をめぐる—」(歴史学研究会編, 『歴史を社会に活かす 楽しむ・学ぶ・伝える・観る』, 東京大学出版会) 223-232頁	2017.5
	著書(分担執筆)	『企画展示「1968年」—無数の問いの噴出の時代』(国立歴史民俗博物館編) 135・139・141-142頁	2017.10
	論文(単著)	「1960年代という『偏向報道』攻撃の時代—『マスコミ月評』に見る言論圧力(上)」(『立命館産業社会論集』53巻4号) 51-68頁	2018.3
	研究発表等(単独)	「大学担当記者から見た『1968年』大学闘争—内藤国夫を中心に」(『1968年』社会運動の資料と展示に関する総合的研究) 研究会, 於: 国立民俗学博物館	2018.3
盧 載玉	論文(単著)	「朝鮮時代初期の山水画における独自性について—文人との関わりにおいて—」(『人文社会科学研究』25集巻, 世明大学校人文社会科学研究所編) 85-102頁	2017.12
野田 正人	著書(分担執筆)	「『不登校への対応』で管理職に求められる視点と対応策」(『別冊教職研修 学校管理職合格セミナー』, 教育開発研究所) 28-31頁	2017.4
	論文(単著)	「非行問題と学校」(『世界の児童と母性』81号, 資生堂社会福祉事業財団編) 49-53頁	2017.4
	研究発表等(単独)	「一人一人の多様な課題に対応した, 切れ目のない組織的支援」(京都府小・中・義務教育学校生徒指導主任会議講演, 於: 京都府総合教育センター)	2017.6
	研究発表等(単独)	「求められる教育相談体制と児童自立支援施設との連携」(児童自立支援施設に併設された学校教育研究会2017横浜大会, 於: 横浜市立向陽学園)	2017.7
	研究発表等(単独)	「自尊心の高まりに向けて, 不登校の解消」(綾部市豊里中学校区研修会, 於: 豊里中学校)	2017.8
	研究発表等(単独)	「スクールソーシャルワーカーを活用した児童生徒理解, 指導について」(亀岡市詳徳小・中学校合同研修会, 於: 詳徳中学校)	2017.8
	研究発表等(単独)	「児童分野からの司法福祉の現状と課題」(京都社会福祉士会司法と福祉委員会研修会, 於: 京都社会福祉会館)	2017.8
	その他(司会・パネリスト等)	「指定討論: 社会的養護の子どもの表現と自己認知」(樋口純一郎・米崎ちひろ, 日本心裡臨床学会第36回大会, 於: パシフィコ横浜)	2017.11
	長谷川千春	著書(分担執筆)	「民間医療保険」「無保険者」「産業・雇用構造の変化と医療保障」(アメリカ医療関連データ集製作委員会, 『アメリカ医療関連データ集【2017年度版】』, 医療経済研究機構) 120-130・131-135・162-172頁
研究発表等(単独)		「オバマケアのもとでのアメリカ医療保険市場の現状」(平成30年1月度保険学セミナー〈大阪〉, 於: 大阪第一生命ビル)	2018.1
原尻 英樹	論文(単著)	「재일 조선인과 중국 조선족의 재 발달에 관한 비교 연구」(『中国朝鮮民族史学会誌』2017年度巻, 中国朝鮮民族史学会編) 25-46頁	2017.7
樋口 耕一	論文(単著)	「言語研究の分野における KH Coder 活用の可能性」(『計量国語学』31巻1号, 計量国語学会編) 36-45頁	2017.6
	論文(単著)	「A Two-Step Approach to Quantitative Content Analysis: KH Coder : Tutorial Using Anne of Green Gables (Part II)」(『立命館産業社会論集』53巻1号) 137-147頁	2017.6
	論文(単著)	「文章の計量的分析ツール『KH Coder』—言語学的な分析のための設定と操作」(李在鎬ほか編, 『文章を科学する』, ひつじ書房) 82-101頁	2017.10

名 前	種 別	書名、論文名等、(掲載書名・誌名(巻号)、出版社・発行所)、頁	発行年月
樋口 耕一	論文(単著)	「計量テキスト分析およびKH Coderの利用状況と展望」(『社会学評論』68巻3号, 日本社会学会編) 334-350頁	2017.12
	論文(共著)	「計量テキスト分析用フリーソフトウェア「KH Coder」の利用動向と展望—産学連携による展開を考えながら—(中村康則・周景龍, 『信学技報』117巻439号, 電子情報通信学会編) 45-50頁	2018. 2
	研究発表等 (単独)	“Statistical analysis of Japanese textual data using PC: developing free software KH Coder”(The 28th European Association of Japanese Resource Specialist, 於: University of Oslo, Norway)	2017. 9
	研究発表等 (共同)	「計量テキスト分析用フリーソフトウェア「KH Coder」の利用動向と展望—産学連携による展開を考えながら—(中村康則・周景龍, 第12回テキストアナリティクス・シンポジウム, 於: ティーオージー会議室, 大阪)	2018. 2
	その他(単著)	「フリーソフトウェア『KH Coder』の文章データ分析機能」(『統計』68巻4号, 日本統計協会編) 42-47頁	2017. 4
	その他(単著)	「情報化」『社会学の力—最重要概念・命題集—』(友枝敏雄・浜日出夫・山田真茂留編, 有斐閣) 246-249頁	2017. 6
日暮 雅夫	著書(共訳)	アクセル・ホネット著『私たちのなかの私—承認論研究』(三崎和志・出口剛司・庄司信他, 法政大学出版社) 1-6・8-29・84-112・113-144・293-313・344-347・349-368頁	2017. 5
	論文(単著)	「批判的社会理論, 新自由主義への対抗戦略—A. ホネットとN. フレイザー—」(『立命館産業社会論集』53巻4号) 1-13頁	2018. 3
	研究発表等 (単独)	「批判的社会理論の対抗戦略—新自由主義批判のために—」(第20回社会文化学会大会, 於: 立教大学池袋キャンパス)	2017.12
日高 勝之	論文(単著)	「カストロフィとソーシャル・メディア—福島原発事故自主避難者ブログの研究—」(『立命館大学人文科学研究紀要』第115号) 249-276頁	2018. 3
	研究発表等 (単独)	「『脱原発』とメタ政治的正義—フクシマ以降の『脱原発』メディア・ジャーナリズム言説を考えるために—」(日本コミュニケーション学会第47回年次大会, 於: 京都ノートルダム女子大学)	2017. 6
	研究発表等 (単独)	“Fukushima and Japanese Journalism: Why and How They Converted to Antinuclear Advocates after Fukushima Nuclear Disaster?” (The 15th International Conference of European Association for Japanese Studies, 於: Lisbon, Portugal)	2017. 8
	研究発表等 (単独)	“Collective Remorse for the Past: Transformation of Japanese Film and TV Representations of ‘the 300-Million Yen Robbery’ of 1968” (International Workshop: Cinema and Social Change, 於: Kyoto, Japan)	2017.10
福岡 良明	論文(単著)	「特集企画にあたって: ポスト『戦後70年』と戦争社会学の新展開」(『戦争社会学研究』1巻, 戦争社会学研究会編) 8-18頁	2017. 4
	論文(単著)	「ポピュラー・カルチャーにおける『継承』の過剰と脱歴史化: 知覧に映る記憶のポリティクス (特集 戦争と軍事文化の社会学)」(『フォーラム現代社会学』16号, 関西社会学会編) 104-115頁	2017. 5
	研究発表等 (単独)	「『野火』に映る戦後」(戦争社会学研究会シンポジウム「『野火』の戦争社会学」, 於: 琉球大学)	2017. 4
前田 信彦	論文(単著)	「中高齢キャリアにおける成人力と公共的関与—キャリアと公共性に関する試論—」(『立命館産業社会論集』53巻3号) 27-42頁	2017.12

名前	種別	書名、論文名等、(掲載書名・誌名(巻号)、出版社・発行所)、頁	発行年月
前田 信彦	論文(単著)	「国際成人力調査 (PIAAC) における成人力 (Adult Competencies) の概念と測定—『職業能力』と『学習能力』—」(『立命館産業社会論集』53巻3号) 83-95頁	2017.12
増田 幸子	研究発表等 (単独)	「日本のテレビドラマに現れた『8月15日』」(第15回欧州日本学会国際会議2017, 於:リスボン新大学)	2017.9
松島 綾	その他 (同会・パリスト等)	「コミュニケーション学の未来について語り合う」(日本コミュニケーション学会第47回年次大会, 於:京都ノートルダム女子大学)	2017.6
	その他 (同会・パリスト等)	「レトリックにおける解釈の連鎖・表象・文化—『言葉と物』を読み直す」(日本コミュニケーション学会第47回年次大会, 於:京都ノートルダム女子大学)	2017.6
	その他 (同会・パリスト等)	「河合優子(編)『交錯する多文化社会~異文化コミュニケーションを捉え直す~』合評会」(日本コミュニケーション学会中部支部大会, 於:愛知淑徳大学星ヶ丘キャンパス)	2017.12
松島 剛史	研究発表等 (単独)	“Rugby and Nationalism: A case Study on the Changes in National Consciousness by Rugby Japan National Team” (Cultivating the Body: Martial arts and Sports as Physical Education, 於: Ghent University, Belgium)	2018.2
松田 亮三	論文(単著)	「医療のアクセス障壁—実態分析への接近と状況把握について」(『いのちとくらし研究所報』59号, 総研いのちとくらし編) 1-9頁	2017.6
	論文(単著)	「日韓医療保険における保険料賦課の課題」(『社会政策』9巻2号, ミネルヴァ書房) 40-41頁	2017.11
	論文(単著)	「日韓における保険料賦課をめぐる政策課題の共通性と差異—二か国の事例からの問い」(『社会政策』9巻2号, ミネルヴァ書房) 68-72頁	2017.11
	論文(単著)	「刑務所の公衆衛生—被収容者の健康課題把握と戦略形成—」(『矯正講座』37号, 成文堂) 239-262頁	2018.3
	論文(単著)	「医療福祉政策研究—多様な課題とアプローチを受け入れて」(『医療福祉政策研究』1巻1号, 日本医療福祉政策学会編) 1-6頁	2018.3
	研究発表等 (単独)	“Hierarchy, market or network? Analysing governance of the Japanese mixed health care delivery” (The 3rd International Conference on Public Policy, 於: Lee Kuan Yew School of Public Policy, Singapore)	2017.6
	研究発表等 (単独)	“Welfare State and Dying: A Case Study of Japan” (The 14th East Asian Social Policy Research Network Annual Conference, 於: Nagoya University, Japan)	2017.8
	研究発表等 (単独)	“Epidemiological Knowledge for local health policy making: Insights from the new public health system in England” (The 21st World Congress of Epidemiology, 於: Sonic City in Saitama, Japan)	2017.8
	研究発表等 (単独)	「諸外国の公衆衛生政策における健康格差指標」(第76回日本公衆衛生学会, 於: 鹿児島県文化センター)	2017.11
	研究発表等 (単独)	「医療福祉政策研究への多様なアプローチ」(日本医療福祉政策学会第1回研究大会, 於: 神戸大学鶴甲第2キャンパス)	2017.12
	研究発表等 (単独)	「健康格差縮小に向けた公衆衛生活動—保健師への期待—」(第6回日本公衆衛生看護学会学術集会, 於: 大阪国際会議場)	2018.1
	その他(共著)	「フランスの地域医療介護の動向と在宅入院制度(座談会)」(『いのちとくらし研究所報』61号, 総研いのちとくらし編) 30-53頁	2017.12

名 前	種 別	書名、論文名等、(掲載書名・誌名(巻号)、出版社・発行所)、頁	発行年月
丸山 里美	著書(共著)	『子どもの貧困を問いなおす一家族・ジェンダーの視点から』(松本伊智朗編, 法律文化社) 120-133頁	2017.10
	著書(編著)	『貧困問題の新地平—もやいの相談活動の軌跡』(旬報社) 全188頁	2018. 1
	論文(単著)	「見えない女性の貧困とその構造—ホームレス女性の調査から」(『住民と自治』 8月号, 自治体問題研究所編) 10-13頁	2017. 7
	論文(共著)	「婦人保護施設『生野学園』の歩み」(古久保さくら, 『思い, 紡いで—いくの学園20周年記念誌』, いくの学園編) 53-88頁	2018. 3
峰島 厚	著書(共編著)	『社会福祉士シリーズ14「障害者に対する支援と障害者自立支援制度」第4版』(木全和巳・富永健太郎編, 弘文堂) 1-3・64-66・252-271頁	2018. 3
	論文(単著)	「社会福祉法人制度改革の現段階と実践, 事業経営, 運動の課題—『我が事・丸ごと』地域共生社会施策の一つとしての社会福祉法『改正』問題を考える—」(『総合社会福祉研究』48号, 福祉のひろば編) 11-18頁	2017.12
	書評(単著)	「秦安雄著『障害者の発達と労働』」(『障害者問題研究』45巻3号, 全国障害者問題研究会編) 75-79頁	2017.11
	その他(単著)	「福祉最前線『我が事・丸ごと』地域共生社会」(『手話通訳問題研究』140号, 全国手話通訳問題研究会編) 54-55頁	2017. 5
	その他(単著)	「『滋賀の強度行動障害者加算制度の創設と改善運動』(寺川登) 実践に学ぶ—支援のあり方と運動のあり方を問う—」(『障害者問題研究』45巻2号, 全国障害者問題研究会編) 64-65頁	2017. 8
	その他(単著)	「『我が事・丸ごと』地域共生社会はなにが問題か」(『みんなのねがい』615号, 全国障害者問題研究会出版部編) 19-21頁	2017.11
宮口 幸治	著書(単著)	『もっとコグトレ さがし算60 初級』(東洋館出版社) 全96頁	2017.12
	著書(単著)	『やさしいコグトレ 認知機能強化トレーニング』(三輪書店) 全76頁	2018. 2
	著書(共著)	『子どものやる気をなくす30の過ち』(田中繁富著, 小学館集英社プロダクション) 1-88頁	2017. 9
	著書(分担執筆)	『性的虐待を受けた子どもの施設ケア』(八木修司・岡本正子編著, 明石書店) 263-267頁	2017.12
	論文(単著)	「コグトレとは何か? 次世代の治療トレーニング」(『小児の精神と神経』57巻1号, 日本小児精神神経学会編) 29-37頁	2017. 4
	論文(単著)	「障害のある非行少年の実態と支援—一般教育へ伝えたいこと」(『世界の児童と母性』86巻, 資生堂社会福祉事業財団編) 31-36頁	2017. 4
	論文(単著)	「発達障害・知的障害をもった非行少年の実態と支援—医療・教育・福祉領域への提言」(『司法精神医学』13巻1号, 松下正明専門編集) 70-77頁	2018. 4
	研究発表等(単独)	「発達障害・知的障害をもった非行少年の実態と支援—医療・教育・福祉領域への提言」(第13回日本司法精神医学会大会, 於: 大阪国際会議場)	2017. 6
	研究発表等(単独)	「認知作業トレーニング(コグトレ)」(大阪府支援教育研究会, 於: 大阪府教育センター)	2017. 8
	研究発表等(単独)	「コグトレとは? ~次世代の治療トレーニング」(関西福祉大学第6回子ども支援セミナー, 於: 関西福祉大学2号館)	2017. 8
その他(司会・パネリスト)	「学校における認知機能向上のためのシステム導入」(第26回日本LD学会, 於: 栃木県総合文化センター)	2017.10	
柳澤 伸司	論文(単著)	「『新聞』との多角的な連携—『記事』活用を超えるNIEの可能性—」(『日本NIE学会誌』13号, 日本NIE学会編) 1-10頁	2018. 3

名 前	種 別	書名, 論文名等, (掲載書名・誌名 (巻号), 出版社・発行所), 頁	発行年月
柳澤 伸司	研究発表等 (単独)	「NIE の見える化～新聞活用度シートの試み～」(日本NIE研究会第19回清里フォーラム, 於:清泉寮)	2017.7
	その他(単著)	「新聞博物館30年に思う NIE 連携 さらに工夫の余地も」(『熊本日日新聞』) 20頁	2017.11
山下 高行	論文(単著)	「『マルクス主義スポーツ論』についての検討(中間報告)」(『現代スポーツ研究』第2号, スポーツ科学研究所編) 69-77頁	2017.11
山本 耕平	著書(共著)	『今日もいっしょに空を見上げて 相談員 吉田春花～』(きょうされん相談・支援部会編著, きょうされん) 76-95頁	2017.9
	論文(単著)	「『支援一被支援』関係から協同の関係へ—麦の郷実践を事例に一」(『協同の発見』298号, 協同総合研究所編) 63-74頁	2017.9
	研究発表等 (単独)	「ともに生き ともに育つ ひきこもり支援～家族も支援者もともに学ぶ～」(名古屋市ひきこもり地域支援センター平成29年度ひきこもり講演会, 於:名古屋市高齢者就業支援センター)	2017.10
	研究発表等 (単独)	「ひきこもる若者の支援とは」(秋田県ひきこもり相談支援センター平成29年度ひきこもり支援相談研修会, 於:秋田県精神保健福祉センター)	2017.11
吉田 誠	論文(単著)	「1952年秋における全日産分会の本工化闘争とその後」(『立命館産業社会論集』53巻1号) 121-135頁	2017.6
	研究発表等 (単独)	「戦後初期の日産自動車における臨時工と労使関係」(日本労働社会学会第29回研究大会, 於:富山大学)	2017.10
リム ボン	論文(単著)	「学術論文の執筆方法に関する一考察—(その1) 立ち位置・テーマ・心意気—」(『立命館産業社会論集』53巻2号) 77-84頁	2017.9